

---

# 交換留学報告書

---

留学先：ボアジチ大学  
(トルコ共和国)

静岡県立大学 国際関係学部 国際関係学科  
4年

「ただいま」と言って帰れる場所が一つ増えた。ボアジチ大学で学んだ友達がいるイスタンブールである

初めて耳にしたトルコ語の響き、深い群青をたたえるボスポラス海峡、礼拝の呼びかけが街にこだまする早朝——胸を高鳴らせた10か月間を振り返ると、すべてが新鮮でありながら、懐かしい夢の続きを旅しているようです。本報告では、その日々が私にもたらした学びと成長をお伝えいたします。

私は2024年9月から2025年6月まで、イスタンブールの Boğaziçi University に交換留学し、政治・国際関係学科に所属し、勉学に励みました。政治学・国際外交・国際法などを履修し、講義はすべて英語で行われました。毎週40ページを超えるリーディングと鋭い質問が飛び交う教室では、留学当初の理解度が30%ほどしかなく、私は足場のない海に放り込まれたような心細さを味わいました。それでも授業後には学生や教授に質問を重ね、図書館で復習を欠かさず続けた結果、後期には理解度を70%以上に高めることができました。特に忘れがたいのは、突如休講になった日のことです。教室に残っていたトルコ人学生と夕暮れまで語り合った3時間は、中東情勢から国内政治まで縦横に論じ合う濃密な時間となりました。それは、私にとって教科書には載らない知的刺激を得る貴重な機会となりました。

生活面では学内寮が大きな支えとなりました。寮費と光熱費が免除され、清掃員の方が毎日部屋を整えてくださる環境は、初めての海外生活への不安を和らげ、学業に専念する余裕を与えてくれました。また、キャンパスの寮に暮らしていたため、イスタンブール名物の渋滞と無縁でいられたおかげで、朝一番

の集中力を保ったまま講義に臨めたことは、特筆すべき利点でした。

授業外には、私の“第2の教室”——バレーボール部がありました。部活動として入部させてもらったバレーボール部でも、かけがえのない時間を過ごしました。本学でも続けてきた競技を現地でも継続し、チームメイトからトルコ語表現や社会問題まで幅広く学びました。たび重なる遠征や、政治的ボイコットで試合が突然中止となる試練を共に乗り越えるうちに、私はただの留学生の枠を越えていました。彼らは私を家族同然の存在として受け入れてくれました。コートで交わしたハイタッチと笑顔は、国籍も宗教も超えて私の記憶に深く刻まれています。言葉を交わさずとも、ボールを追う視線ひとつで次の展開を共有でき、まさに言語の壁を越えて心が通じ合う瞬間を味わいました。

学外では、在イスタンブール日本国総領事館の文化イベントにボランティアとして参加し、会場を埋め尽くす来場者から日土友好の歴史の深さを実感しました。また、学期休みや休日を利用してブルガリアやスペイン、北マケドニア、コソボなど計8か国を旅し、民族と宗教が折り重なる土地で平和の尊さを学びました。長い歴史を持つ国と若い国を行き来した経験により、教科書からは得難い背景などを肌で感じ取ることもできました。

---

#### 後輩へのメッセージ

これから留学を志す後輩の皆さんへ。語学の壁や異文化との衝突は避けられませんが、それを越えるたびに視野は広がり、自信へと変わります。わからないことは恐れずに尋ね、時には失敗も笑い飛ばし、目の前の機会を逃さないで

ください。小さな1歩の積み重ねが、やがて大きな飛躍を生みます。出会いと学びに満ちた日々が皆さんを待っています。どうか勇気を携え、まずは1歩を踏み出してください。

#### 感謝の辞

最後に、この留学は私ひとりの力では到底成し得ませんでした。出発前から帰国後まで導いてくださった 佐藤先生、手続きを支えてくださった学生室・国際交流室の皆さま、経済的に大きな苦勞なく留學生活を送ることを可能にしてくれた JASSO 給付奨学金、そして遠く離れた地から私の挑戦を見守り続けてくれた家族に、心より感謝申し上げます。皆さまの支えがあったからこそ、私は安心して未知の土地へ飛び込み、数え切れないほどの学びを得ることができました。この経験を糧に、大学生活と社会生活において、学んできたこと広く還元していけるよう心がけ、感謝の気持ちを形にしていく所存です。

改めて、本留学を支えてくださったすべての方々に深く御礼申し上げます。



